

雜 錄

南滿洲鐵道株式會社事業狀況（第31回營業報告書）（昭和6年度昭和6年4月1日—昭和7年3月31日）昭和6年度（昭和6年4月1日より昭和7年3月31日に至る）の會計を決算し事業報告書、貸借對照表、財産目錄損益計算書及利益金處分に係る計算書を掲げ茲に株主に提出せり。

1. 事業報告書

第1 庶 務

重役の任免 昭和6年4月4日理事從六位勳五等藤根壽吉は任期満了に付退任せり同年6月13日總裁正四位勳一等仙石貢は願に依り其の職を免ぜらる昭和6年6月13日從二位勳一等伯爵内田康哉は總裁を仰付けらる。

同年同月同日副總裁從六位大平駒植は願に依り其の職を免ぜらる。

同年同月同日勳六等江口定條は副總裁を仰付けらる。

同年7月15日理事正四位勳五等男爵大藏公望は願に依り其の職を免ぜらる。

同年同月同日首藤正壽、山西恒郎及竹中政一は理事を命ぜらる。

同年7月26日理事從四位勳三等神鞭常孝は任期満了に付退任せり。

同年8月23日監事湯川寛吉は死亡せり。

監理官の更迭 昭和6年5月8日拓務省殖産局長殖田俊吉氏は當會社監理官を免ぜらる。

同年同月同日拓務省殖産局長田原和男氏は當會社監理官を命ぜらる。

同年11月21日拓務省殖産局長田原和男氏は當會社監理官を免ぜらる。

同年同月22日拓務省殖産局長心得阪谷希一氏は當會社監理官を命ぜらる。

昭和7年1月13日拓務省殖産局長心得阪谷希一氏は當會社監理官を免ぜらる。

昭和7年1月13日拓務省殖産局長北島謙次郎氏は當會社監理官を命ぜらる。

同年同月29日關東廳內務局長三浦碌郎氏は當會社監理官を免ぜらる。

同年2月6日關東廳內務局長日下辰太氏は當會社監理官を命ぜらる。

第30回定時株主總會 昭和6年6月20日東京市麴町

區丸の内三丁目四番地帝國鐵道協會に於て第30回定時株主總會を開き昭和5年度事業報告書、貸借對照表、財産目錄及損益計算書承認の件、昭和5年度利益金處分の件並退職役員に對し慰勞金贈呈の件を可決せり。

第31次社債募集の認可 昭和6年7月2日第31次社債募集の件認可せられたり。

第31次社債發行 昭和6年8月1日社債金3,000萬圓を第25次社債總額金1,000萬圓の償還及手形借入金2,000萬圓返濟の爲發行し左記の條件に依り株式會社日本興業銀行外11箇銀行をして引受けしめたり。

1. 各社債の金額金 100圓、1,000圓及1萬圓の3種として無記名利札附とす。

1. 利率 年5分5厘。

1. 發行價額 額面100圓に付金99圓。

1. 償還の方法及期限 昭和7年8月1日迄据置き其の後昭和13年8月1日迄に隨時償還す、但し一部償還は抽籤に依る。

買入鎖却は何時にても之を爲すことを得。

1. 利子支拂の方法及期限 利子は發行日の翌日より償還期日迄之を附し毎年2月1日及8月1日の2回に其の日迄の前半箇年分を支拂ふ、但し償還の場合に於て半箇年に満たざるときは日割を以て計算す、償還期日後は利子を附せず。

豫算及決算の認可 昭和6年6月20日昭和5年度事業費及營業收支決算並利益配當割合の件認可せられたり。

昭和7年2月23日昭和年度營業收支豫算更正の件認可せられたり。

同年同月同日昭和7年度事業計畫、事業費及營業收支豫算の件認可せられたり。

同年3月17日昭和6年度事業費及營業收支豫算追加の件認可せられたり。

同年同月同日昭和6年度事業費豫算流用の件認可せられたり。

株主人員及株式名義書換 昭和6年度末現在人員は2萬5,478名にして前年度末に比し4,103名を増加せり而して本年度内株式名義書換登録株數は舊株式46萬2,604株、新株式54萬6,783株なり。

株券引換未濟 昭和6年度末に於ける分割株券引換未濟株主は85名なり。

社員現在數 昭和6年度現在社員數は3萬2,130名にして内月俸社員7,399名、雇員3,341名、備員2萬1,012名、囑託378名なり。

第2事業

施設 昭和6年度に於ける當会社の施設は新規事業費384萬2,000圓、前年度繰越事業費2,663萬3,000圓合計5,747萬5,000圓を以て計畫を樹てたるが事業の進捗上2,682萬9,000圓の支出を爲したり。

今各事業に就き其の梗概を摘記すれば左の如し。

鐵道 輸送能力の増加及安全を期する爲機關車、客車及貨車の建造増備、南嶺大房身間、張臺子煙臺間及孟家屯長春間線路勾配並曲線の變更、過年度來施行しつつありし50 吨軌條設替、注藥枕木及砂利の増設等は何れも之を續行し更に機關車長距離運轉計畫に伴ひ蘇家屯及大連機關庫の新增築工事を施行せり其の他繼續施行中なりし沙河口吾妻間入船線新設、入船操車場新設、太子河橋梁擴張及釣魚臺隧道新設工事は年度内に竣工せる外列車運轉の保安を圖る爲各所聯動裝置、信號表示器新設、電話回線の不足を補ふ爲中繼線の増備、主要電線路の改築を爲せる等800萬2,000圓を支出せり。

旅館 昭和3年1月會社より分離したる旅館業は同6年4月再び會社に還元し各地旅館諸機器及内部諸設備の改善補充を爲せる等16萬5,000圓を支出せり。

鐵道工場 製作修理機能の増進を圖る爲既往諸設備の改良並機器の増備補充を爲せる等11萬7,000圓を支出せり。

港灣 過年度來施行しつつありし寺兒溝第2棧橋、露西亞町防波堤築造工事は本年度之を竣工し小崗子、露西亞町、寺兒溝第1棧橋以東の埋立、大連港浚渫、大阪埠頭、川崎埠頭築造工事は何れも之を續行せる外大連埠頭諸設備の増備補充を爲せる等332萬1,000圓を支出せり。

鑛山 各露天掘の進捗に伴ひ剝岩用諸機器並運搬施設の増備擴張、坑内掘諸機器の改善補充を爲し大官屯第2發電所諸機器を増設したる外各工場機器の増備、電燈、電力、電線路、電氣鐵道線路及雜施設工事の改増築を爲せる等850萬2,000圓を支出せり。

製油工場 重油工場及雜施設工事は14萬5,000圓を支出せり。

製鐵所 銑鐵工場に於ける増備施設、第1熔鑛爐の改築、選鑛工場に於ける燒結機並還元爐の改造、中央汽罐室増設、散炭爐上昇管の改造を爲したる外甘井子石灰山の採掘施設を爲せる等202萬圓を支出せり。

地方施設 滿洲醫科大學増改築、南滿洲保養院新築、學級増加に伴ふ各地小學校の新增改築、奉天、安東各中

學校寄宿舎の新築、市街地發展に伴ふ各地用地の買収、道路増改設を爲したる外衛生上看過し難き上下水道の擴張を爲せる等264萬8,000圓を支出せり。

雜施設 雜種地の買収、事務所機器の補充、各地社宅及俱樂部の新增改築を爲せる等190萬6,000圓を支出せり。

營業 昭和6年度に於ける營業成績は營業收入1億7,105萬4,000圓、社員退職給與積立金及特別積立金戻入1,600萬圓合計1億8,705萬4,000圓、營業費1億7,445萬5,000圓、差引益金1,259萬8,000圓にして之を前年度に比すれば收入104萬9,000圓を減じ經費802萬5,000圓を増加したる爲益金907萬4,030圓を減少せり更に各事業に就て之を觀れば左の如し。

鐵道業に在りては收入8,547萬6,000圓、支出3,729萬圓差引益金4,818萬5,000圓にして之を前年度に比すれば收入935萬4,000圓を減じ經費52萬2,000圓を増加したる爲益金1,037萬6,000圓を減少せり、本年度の石炭輸送は上半期に於ては開瀾炭問題の爲海外の賣行多く其の運賃は増加したるが下半期に入りては時局に加ふるに冬期特別の溫暖なりし結果荷動不振を極めたり、其の他の一般貨物は世界的の財界不況並支那隣接鐵道の不當競争益と深刻を加へたる外銀價の下落著しく従て旅客、貨物共に收入の減少を示したり、幸に事變後輸送経路が支那側鐵道の運轉休止によりて變化したるに乘じ極力貨物の吸集に努力したる結果輸送數量は増加したるも貨物運賃の低減は旅客輸送の不振と相俟つて如上の減收を示せり即ち旅客運輸に在りては乗車人員633萬人、客車收入913萬5,000圓にして前年度に比し人員に於て178萬人、收入に於て232萬5,000圓を何れも減少し貨物運輸に在りては貨物取扱噸數1,545萬噸、貨車收入780萬7,000圓にして前年度に比し噸數に於て26萬噸を増加し收入に於ては703萬8,000圓を減少せり次に經費の増加は一般經常費支出は銳意節約に努めたる爲減少したるたるも主として建物及車輛減價償却費の増加せるに因りたるものなり。

旅館業に在りては昭和3年1月會社より分離したるが同6年4月再び會社に還元せり本年度に於ける成績は收入130萬3,000圓、支出139萬9,000圓、差引損金9萬6,000圓なり。

港灣業に在りては收入835萬7,000圓、支出706萬9,000圓、差引益金128萬8,000圓にして之を前年度に比すれば收入20萬圓を減じ經費33萬1,000圓を増加したる爲益金53萬2,000圓を減少せり而して其の收入の減少したるは輸出貨物の増加に因り埠頭收入46萬3,000圓の増加

を觀たるも倉庫料免除期間の延長、埠頭諸掛の料金値下及其の他に於ける減收に基くものにして支出の増加は主として埠頭費及減價償却費の増加に因るものなり。

鑛業に在りては収入 5,273 萬 1,000 圓、支出 5,271 萬 4,000 圓差引益金 1 萬 6,000 圓にして之を前年度に比すれば収入 970 萬 9,000 圓經費 791 萬 3,000 圓、差引金 179 萬 6,000 圓を何れも減少せり其の収入の減少せる原因は世界的不況と滿洲並上海事變其の他氣候の影響を受けたる爲社炭の賣行著しく不利不振を極め地賣及社用炭に於て 33 萬噸、495 萬 5,000 圓を減少し輸出及船焚用炭に於て 19 萬 8,000 噸の増加を觀たるも單價低減に依り 425 萬 6,000 圓の減收となりたる等にして經費の減少せるは探炭原價の低減及販賣數量減少に伴ふ自然減少に因るものなり。

製油業に在りては収入 336 萬圓、支出 307 萬圓、差引益金 28 萬 9,000 圓にして之を前年度に比すれば収入 74 萬 5,000 圓、支出 43 萬 8,000 圓、差引益金 25 萬 7,000 圓を何れも増加せるものにして創業第 1 年に引續き本年度の成績も亦良好なりしと謂ふべし。

製鐵業に在りては収入 770 圓 8,000 圓、支出 1,608 萬 8,000 圓、差引損金 298 萬圓にして之を前年度に比すれば収入 106 萬 7,000 圓、經費 338 萬圓を何れも増加せり収入増加は前年度銑鐵販賣數量 16 萬 2,000 噸に對し本年度は 27 萬 7,000 噸を販賣せるに因るものにして經費の増加せるは販賣高増加に伴ふ自然増加に因るものなり而して差引損益に於ては本年度も亦缺損を計上するの止むなきに至りたるは鐵價の低落に因るものなり。

地方經營に在りては教育、衛生、産業及各種試驗事業等に要せし經費 1,536 萬 6,000 圓にして醫院收入其の他の収入 448 萬 8,000 圓を差引き 1,807 萬 7,000 圓の損失にして之を前年度に比すれば 15 萬 8,000 圓の損失増加なり。

第 3 會 計

資本及株式 (昭和 7 年 3 月 31 日現在)

資本金總額	880 萬株 (1 株金 50 圓)	4 億 4,000 萬圓
日本政府持株	440 萬株	2 億 2,000 萬圓
一般募集株	440 萬株	2 億 2,000 萬圓
内譯	舊株式	240 萬株 1 億 2,000 萬圓
	新株式	200 萬株 1 億 萬圓
	計	440 萬株 2 億 2,000 萬圓
拂込濟株金	日本政府持株	財產出資 1 億圓圓
	引受株式	1 億 1,715 萬 6,000 圓
	一般募集株	舊株式 1 億 2,000 萬圓 新株式 5,000 萬圓
計	3 億 8,715 萬 6,000 圓	
拂込未濟株金	日本政府引受株式	234 萬 4,000 圓
	一般募集新株式	5,000 萬圓
	計	5,284 萬 4,000 和

社債 本年度に於ては昭和 6 年 8 月第 31 次社債 3,000 萬圓を募集し同年同月第 25 次社債 1,000 萬圓を償還し第 6 次社債償還殘額 382 萬 5,000 圓の内 22 萬 5,000 圓 (第 7 回、第 8 回償還) 第 8 次社債償還殘額 1,820 萬圓の内 30 萬圓 (第 7 回抽籤償還) を償還せり而して年度末現在社債總額は 3 億 1,605 萬 2,000 圓なり、其の内譯次の如し。

回次	現在額	發行年月日	年利率	償還期限	摘要
第 5 次	5,700 千圓	大正 6, 8, 1 6	分	昭和 7, 8, 1	
第 6 次	3,600	同 6,10,22 5	分	同 22,10,22	
第 7 次	9,800	同 7, 5,15 6	分	同 8, 5,15	
第 8 次	17,900	同 8, 7,21 6	分	同 9, 7,21	
第 19 次	39,052	同 12, 7,19 5	分	同 23, 7,15	英貨 400 萬磅
第 23 次	35,000	同 14, 9, 5 6	分	同 10, 9, 5	
第 24 次	15,000	同 15, 4,15 6	分	同 13, 4,15	
第 26 次	20,000	昭和 2, 4,25 6	分 5 厘	同 12, 4,25	
第 27 次	50,000	同 2,12,10 5	分 5 厘	同 12,12,10	
第 28 次	35,000	同 3, 6,20 5	分 5 厘	同 13, 6,20	
第 29 次	35,000	同 4, 3,15 5	分 5 厘	同 14, 3,15	
第 30 次	20,000	同 5,11,10 6	分	同 10,11,10	
第 31 次	30,000	同 6, 8, 1 5	分 5 厘	同 13, 8, 1	
計	316,052				

社債發行限度は現在 4 億 4,000 圓にして之に對する發行餘力は 1 億 2,394 萬 8,000 圓を有し内既に株主總會の決議を經何時にても發行し得る金額は 5,904 萬 8,000 圓なり。

事 業 費

種 別	昭和 5 年度	昭和 6 年度決算額				昭和 6 年度
	末現在額	事業費支出額	轉換額	償却及除却額	計	末現在額
鐵道	270,230,960.58	8,002,614.75	減 281,376.28	減 5,846,831.96	1,874,396.51	272,105,357.09
旅館	—	195,450.50	4,372,127.85	減 5,141.29	4,532,437.06	4,532,437.06
鐵道工	6,465,032.51	117,549.95	286,629.60	減 276,970.87	127,203.68	6,592,241.19
港灣	83,200,948.01	3,321,426.25	減 264,513.78	減 1,112,089.49	1,944,822.98	85,145,770.99
鑛山	117,871,976.71	8,502,135.23	減 5,818,876.69	減 4,755,761.60	減 2,072,503.06	115,799,473.65
製油工	8,824,460.88	145,349.12	33,857.46	減 293,507.05	減 114,300.47	8,710,160.41
製鐵所	27,716,715.59	2,020,351.92	375,990.09	減 879,557.15	1,516,785.29	29,233,500.88
肥料工	50,939.56	—	—	—	—	50,939.56
地方施設	176,272,206.92	2,648,370.10	6,737,657.76	減 1,289,529.29	8,096,508.04	184,363,714.96
雜施設	51,435,966.02	1,906,182.08	135,035.37	減 1,342,751.48	698,465.97	52,134,432.99
計	742,069,206.78	26,829,439.50	5,576,522.31	減 15,802,140.81	16,603,821.00	758,673,027.78

本表轉換額中には財産整理額及撤廢額を含む

營業收支

種別	收入	支出			損益
		純支出額	償却及除却費	計	
	圓	圓	圓	圓	圓
鐵道	85,476,297.72	31,478,034.06	5,812,781.42	37,290,815.48	48,185,482.24
旅港	1,303,094.66	1,394,710.44	5,141.29	1,399,851.73	96,756.07
鑛製	8,357,948.02	6,119,756.02	949,463.24	7,069,224.26	1,288,723.76
製地	52,731,585.43	52,706,023.42	8,623.81	52,714,647.23	16,938.20
總收	3,360,550.24	3,070,877.06	4.00	3,070,881.06	289,669.18
社債	7,708,503.59	10,688,537.44	6.00	10,688,543.44	2,980,039.85
積立	4,438,883.21	14,031,705.60	1,334,588.16	15,366,293.76	10,877,410.55
特別	—	18,442,399.00	133,209.03	18,575,708.03	18,575,708.03
前年	4,997,275.64	—	—	—	4,997,275.64
比較	—	17,969,683.35	—	17,669,683.35	17,669,683.35
增減	—	7,752,065.89	—	7,752,065.89	7,752,065.89
減	2,630,263.16	—	—	—	2,630,263.16
	—	1,046,274.27	—	—	1,319,373.26
	—	—	273,098.99	1,319,373.26	1,319,373.26
	8,500,000.00	—	1,538,694.46	1,538,694.46	1,538,694.46
	7,500,000.00	—	—	—	8,500,000.00
計	187,054,401.67	164,400,066.55	10,055,715.78	174,455,781.95	12,598,619.72
前年	188,104,062.66	161,365,113.02	5,065,487.69	166,430,600.71	21,673,461.95
比較	1,049,660.99	3,034,953.53	4,990,227.71	8,025,181.24	9,074,842.23

備考 1. 前表營業收支中には本年度及前年度共繰越金を含まず。
2. 本年度償却及除却費の總額 17,613,934.26
内
事業費より 15,802,140.81

貸金及有價證券より 273,098.99
社債差額より 1,538,694.46
3. 右負擔科目は次の如し
營業費に於て 10,055,715.40
中間勘定に於て 7,558,218.86

2. 貸借對照表 (昭和7年3月31日現在)

資産	金額	負債	金額
株	52,844,000.00	金	440,000,000.00
未業	753,673,027.78	積	25,800,000.00
濟	10,853,755.19	立	147,900,000.00
株	7,093,586.09	金	316,052,000.00
品	87,359,827.59	金	60,413,469.00
品	154,320.04	金	922,737.36
券	27,857,041.91	借	712,350.00
金	69,975,825.59	借	3,676,982.65
借	525,839.94		
借	5,941,372.37		
借	712,405.00		
形	29,056,416.04		
定	62,992.12		
金	67,973,013.71		
金	25,148,675.44		
定	1,412,033.11		
額	9,265,440.04		
計	1,154,909,578.96		

支爲社共	68,000,000.00
拂替員身	105,957.45
手勤貯蓄	7,646,509.07
形定金	41,548,632.75
金	5,232,574.41
未償還	13,056,810.28
假本年	67,500.00
合	3,397,897.17
	20,375,157.88
	1,154,909,578.96

3. 財産目録 (昭和7年3月31日現在)

種類	摘要	金額
拂込未濟株	政府株 240 萬株	52,844,000.00
	民間株 200 萬株	
鐵道	鐵道に關する施設一切	272,105,357.09
旅館	旅館に關する施設一切	4,532,437.06
鐵道工場	鐵道工場に關する施設一切	6,592,241.19
港灣	港灣、埠頭に關する施設	85,145,777.99
鑛製油工場	炭鑛に關する施設一切	115,799,473.65
製鐵所	製油工場に關する施設一切	8,710,160.41
肥料工場	製鐵所に關する施設一切	29,233,500.88
地方施設	肥料工場に關する施設一切	50,939.56
雜商	附屬地内に於ける土地、教育、衛生、産業施設一切	184,368,714.96
貯藏	所有建物に關する施設一切	52,134,431.99
有價證券	石炭、鐵及雜製品其他	10,853,755.19
	鐵道用品、木石材類、機械其他	7,093,576.09
	帝國公債外 47 種	87,359,827.59
		154,327.04

預貸	金	日本興業銀行外 63 口	26,857,041.91
他	金	吉長鐵路局外	69,975,825.59
證	借	朝鮮鐵道局外 17 口	525,839.94
保	借	受入公債證書外 18 口	5,941,372.37
受	金	差入保證金	712,405.00
爲	形	資金付替	29,056,416.04
未	定		62,993.12
假	金		67,973,013.71
工	金		25,148,675.44
事	高		1,412,033.11
場	算		
工	額		9,265,440.04
社	差		1,154,909,578.96
合	計		

負債

種類	摘要	金額
株	金 880 萬株	440,000,000.00
法	積立金	25,800,000.00
法	積立金	147,900,000.00
預	積立金	316,052,000.00
他	債 中東鐵路局外 5 口	60,413,469.00
證	借 差入公債及預金證書	922,737.36
保	借 差入公債及預金證書	712,350.00
支	證 受入保證金	3,676,982.65
爲	形 形定金	68,000,000.00
未	手 手形取組	105,958.45
滿	形 手形取組	7,646,509.07
假	貯 員保證金	41,548,632.75
本	元 保證金	5,232,574.41
年	共 勸定金	13,056,810.28
度	未 拂金	67,500.00
利	償 還社債金	3,398,897.17
益	受 金	20,375,157.82
計	合 計	1,154,909,578.96

4. 損益計算書 (昭和 6 年度)

本年度總益金 194,083,939.77

内譯

鐵	道	收	入	85,476,297.72
旅	館	收	入	1,303,094.66
港	灣	收	入	8,357,948.02
鐵	業	收	入	52,731,585.43
製	油	收	入	3,365,550.24
製	鐵	收	入	7,708,503.59
地	方	收	入	4,488,883.21
收	入	利	息	4,997,275.64
雜			益	2,630,263.16
前	年	度	繰越金	7,779,538.10
社	員	退	職給與積立金戻入	8,500,000.00
特	別	積	立金戻入	7,500,000.00
本	年	度	總損金	174,455,781.95

内譯

鐵	道	經	費	31,478,034.06
旅	館	經	費	1,394,710.44
港	灣	經	費	6,119,756.02
鐵	業	經	費	52,706,023.42
製	油	經	費	3,700,877.06
製	鐵	經	費	10,688,537.44
地	方	經	費	10,431,705.60
總	體	費	費	18,442,399.00
支	拂	利	息	25,421,749.14

雜	損	1,046,274.27		
資	產	償却及除却費	10,055,715.40	
差	引	利益金	2,375,157.82	
5.	利	益金處分 (昭和 6 年度)		
本	年	度	利益金	20,375,157.82
内				
前	年	度	繰越金	7,776,538.10
社	員	退	職給與積立金戻入	8,500,000.00
特	別	積	立金戻入	7,500,000.00
之	を	處	分すること左の如し	
政	府	配	當金 (年 2 分の割)	4,343,120.00
政	府	以	外株主配當金 (年 6 分の割)	12,000,000.00
翌	年	度	繰越金	5,832,037.82

世界鐵鑛業概況 (1930 年) (昭和 7 年 6 月 15 日附在
ベルリン長井商務書記官報告) 1930 年に於ける世界鐵
總產出額は約 1 億 7,500 萬噸にして、1928 年に於けるも
鐵のと略同額なるも、1929 年に於ける 2 億噸に比すれば、
約 2,500 萬噸方の減産を見たる次第なり。

フランスに在りては 1930 年は前年に比し 220 萬噸の
減産を示したるが、エルザス、ロートリンゲン地方は戰
前に比し 112.5% の増産率を示し居れり。而して同國の
鐵鑛輸出は 1929 年は 1,640 萬噸なりしが 1930 年には
1,510 萬噸に減退せり。

ルクセンブルグに在りては 1930 年に於ける鐵鑛生産
は、前年のものに比し 90 萬噸の増産を示したるが、戰
前の夫に比すれば僅に 90.7% に當り居れり。

英國に在りては 1930 年に於ける鐵鑛產出額は、前年
のものに比し 160 萬噸の減産にして、即ち 1913 年のも
のに比すれば僅に 72.7% に過ぎざるなり。而して同國の
1913 年の產出額は世界の總產出額の 9% なりしが 1929
年には 7% 減退するに至れり。而して 1929 年に於け
るドイツ鐵鑛產出額は、世界生産額比率に於て 3% に減
退せり。又粗鐵の輸入は 1929 年に於ては 1,700 萬噸な
りしが 1930 年に於ては 1,390 萬噸に、又 1931 年に於
ては 710 萬噸に減退せり。

スウェーデンに於ける鐵鑛產出額は漸次増産を示し 1930
年には戰前に比し 150% に達したるが、世界總出額の比
率中 1929 年には僅に 6% 當り居るに過ぎず。然し同國
產の鐵鑛は多量の鐵を含有しつつあり。

1930 年に於けるスペインの鐵鑛產出額は、戰前に比す
れば 45% に當り、世界總產出額比率中 1929 年に於て
は 3% を含め居れり。

北米合衆國に於ける鐵鑛產出額は世界總產出額の約 37
% に當り居り、世界第一の生産國なり。又ソヴイェト聯
邦に在りては 1929 年には 890 萬噸を産出し、略戰前の產
出額を見たる次第なり。

世界鐵鑛產出額を示せば左の如し。(單位千噸)

	1913年	1927年	1928年	1929年	1930年
歐洲	107,750	97,037	98,862	112,027	104,807
ドイツ	35,941	6,626	6,475	6,374	5,741
ルクセンブルグ	7,333	7,266	7,027	7,571	6,649
ベルギー	151	181	164	156	未詳
フランス	21,918	45,426	49,000	50,731	48,512
英國	16,253	11,386	11,443	13,426	11,813
ギリシャ	314	124	167	253	171
イタリア	603	521	641	722	728
ノールウェイ	545	479	663	749	772
オーストリア	3,039	1,599	1,928	1,891	1,174
ポランド	—	546	737	659	499
ポルトガル	49	8	14	9	—
ルーマニア	325	98	84	89	未詳
ソヴィエト聯邦	9,214	6,035	7,650	8,868	9,888
スウェーデン	7,476	9,661	4,669	11,468	11,236
スペイン	9,862	4,960	5,771	6,547	5,408
ユーゴスラ	—	336	439	451	428
ウイア	—	—	—	—	—
チエツコスロ	—	1,591	1,776	1,808	1,653
ヴアキア	—	—	—	—	—
ハンガリー	2,059	195	203	258	127
北アメリカ	64,708	64,088	64,767	75,740	60,683
カナダ	279	2	2	3	未詳
ニューファン	1,457	1,357	1,573	1,540	1,340
ドランド	—	—	—	—	—
北米合衆國	62,972	62,729	63,192	74,196	59,343
中央アメリカ	—	—	—	—	—
キューバ	1,607	422	401	682	194
南アメリカ	—	—	—	—	—
チリ	14	1,516	1,515	1,812	1,689
アフリカ	1,967	4,052	4,024	3,258	3,145
アルゼリヤ	1,349	2,029	1,936	2,196	2,201
白領コンゴ	20	78	51	50	56
マロッコ	—	952	1,057	—	—
南アフリカ聯邦	—	78	21	39	52
チニ	598	915	909	973	828
アジア	1,112	3,592	4,419	4,966	—
支那(滿洲を	440	503	925	980	—
含まず)	—	—	—	—	—
日領インド	377	1,876	2,089	2,468	1,880
日本	153	159	172	178	—
朝鮮	142	423	559	559	—
滿洲	—	631	674	781	—
オーストラリア	176	899	686	867	952
合計	177,331	171,690	174,674	199,352	約175,000

ドイツ、ベルギー、フランス、英國及北米合衆國に於ける鐵製品の主産、輸出入額等を示せば左の如し。

	1912年	1927年	1927年	1929年	1930年
鐵鑛産出額	35,941	6,626	6,475	6,374	5,741
輸出	2,613	167	179	116	76
國內販賣	33,328	6,459	6,296	6,258	5,665
輸入	14,024	17,409	13,794	16,953	13,890
國內消費	47,352	23,868	20,090	23,211	19,555
粗鐵生産額	16,761	13,103	11,804	13,401	9,695
粗鐵1噸に要する鐵鑛消費量	2.82	1.82	1.70	1.73	2.02
▲ベルギー、ルクセンブルグ	但1913年はルクセンブルグを含まず)				
鐵鑛産出額	151	7,430	7,181	7,727	6,785
輸出	725	903	900	718	509
國內販賣	—	6,527	6,281	6,909	6,276
輸入	7,085	12,678	13,727	14,057	12,860
國內消費	6,511	19,205	20,008	20,966	19,136

粗鐵生産額	2,485	6,442	6,627	6,947	5,867
粗鐵1噸に要する鐵鑛消費量	2.62	2.98	3.02	3.02	3.26
▲フランス (1927年以後ザール地方を含む)					
鐵鑛産出額	21,928	45,426	49,008	50,731	48,453
輸出	10,067	14,665	17,054	16,407	14,984
國內販賣	11,851	30,761	31,954	34,327	33,469
輸入	1,410	1,047	989	1,141	1,012
國內消費	13,261	31,808	32,943	35,468	14,481
粗鐵生産額	5,122	11,044	12,917	12,469	11,947
粗鐵1噸に要する鐵鑛消費量	2.59	2.82	2.76	2.84	2.89
▲英國					
鐵鑛産出額	16,253	11,386	11,427	13,426	11,813
輸出	5	7	16	7	4
國內販賣	16,248	11,379	11,437	13,419	11,809
輸入	7,561	5,247	4,511	5,780	4,204
國內消費	23,809	16,626	15,938	19,199	16,013
粗鐵生産額	10,424	7,410	6,716	7,711	6,292
粗鐵1噸に要する鐵鑛消費量	2.28	2.24	2.37	2.49	2.55
▲北米合衆國					
鐵鑛産出額	62,972	62,729	63,192	74,196	59,343
輸出	1,241	913	1,303	1,335	764
國內販賣	61,731	61,816	61,889	72,871	48,576
輸入	2,282	2,663	2,492	3,190	2,820
國內消費	64,013	64,479	64,361	67,061	61,399
粗鐵生産額	31,462	37,151	38,766	43,296	32,260
粗鐵1噸に要する鐵鑛消費量	2.03	1.74	1.66	1.76	1.90

(海外經濟事情 5. 33)

水鉛鑛及重石鑛の産出並取引狀況 汕頭(昭和7年8月30日附在汕頭戶根木領事館事務代理報告) 水鉛鑛及重石鑛は歐洲戰後需要の激減と相俟て價格の暴落により一時旺盛なりし斯業家は俄に採掘の手控をなしたるが、他方農工運動の勃興と相繼ぎ共產黨の猖獗に惱され鑛山經營は困難に陥り全然廢坑若くは中止するの無已となり、是に因り名ある當地鑛石取扱商の取扱中止するもの續出を見たり。然して其の地方土民は閉期を利用し手近なところを採掘し、當地或はホンコン方面に運搬するものある程度に繼續され、從て數量も極めて少量に止まり相場如きも當地に於ては成立ざる狀況なり。

産出地方(汕頭に運搬さるゝ地方の分を示す)としては水鉛鑛は梅縣、五華縣、翁源縣、惠陽縣、陸豐縣等にして重石鑛は梅縣、五華縣、惠陽縣、翁源縣等とす。作業は鑛山經營者の下に爲すものに非ずして地方土民の閉期を利用し採掘に従事するものなれば、經費を要せざる露天掘に限り作業する状態にして爆藥の使用火藥を用ゆ、選鑛法は手選法を採り、粉鑛はネコナガシ板を用ゆる處理方法廣く行はれ居れり。

運搬經路としては、

(イ) 梅縣地方の鑛石は韓河を船にて潮安を経て汕頭に出づ、此の里程約135哩。

又豐順を経て揭揚河を船にて汕頭に運ぶものなり、此

の里程約 80 哩。

(ロ) 五華地方は河婆を経て船にて揭陽河を下り汕頭に出づ、此の里程約 90 哩。

又豐順を経て揭陽より船にて汕頭に来るものあり、此の里程約 110 哩。(五華地は方時節に依りホンコン、廣東に運出するもの多し。) 當地取扱華商は海關を経ず大部分ホンコンに密輸出するものにして、綜合するに大約各地方より汕頭に集まる水鉛は 1 ヶ月 3 噸内外見當なり。(水鉛重石鑛共に昭和 5 年當地海關統計に現はれず)。

數年來當地に於ては相場立たず總てホンコンに出貨し同地華商取引業者により外人との間に取引行はれ、大體外人の相場に左右せらるゝ状態にして、ホンコンには廣東省各地よりの集鑛あるため相當量の取引と在庫ある趣なり。從て當地に於て取引せんとする場合はホンコンの相場に應じて値段定まる次第なり。鑛石の採掘より當地に搬入迄は少くも 1 ヶ月内外の時日を要するを常態とし、それも多量を望むことは困難なり。

最近當地の値段は水鉛鑛 80% より 85% 程度のもの 100 斤汕頭渡し銀 130 弗を唱へらる。重石鑛は値段暴落により山元の採算引合はざる爲採掘中止し居り當地に殆んど出荷なく、賣方は汕頭渡し 100 斤 30 弗ならば賣應ずる由なるも取引皆無の有様なり。當地に集まる水鉛鑛の品位は平均 60% 程度のもの多し。重石鑛の品位は平均 780% 程度のものなり。

取扱商としては邦商に汕頭市同益西巷太平公司あり、同公司是鑛山業を經營し居り鑛石に關し詳しく、内地方面の取引希望者は同会社に依頼する方諸事好都合と認めらる。(海外經濟事情 5, 39)

ボンベイ港貿易状況の内鐵器、機械、鐵鋼、其他金屬類、自動車及自働自轉車(海外經濟事情第 5 年第 37 號、諸外國貿易状況より拔萃) 鐵器、此の種に屬するものには農具、其他の器具及工具類、建築用金物類、家庭用金物、珞珈鐵器、ランプ、金庫、ストーブ、瓦斯マントル等極めて廣範圍に互る品目を包含し、而も此の種ものは夫が一團として同一國定稅率に依つて課稅し得るものの代表的なるものにして、其實貿易の關係の數字の消長は一般經濟並貿易狀態の指標となるものである。

輸入總額は 1,010 萬ルーピー、前年に比し 562 萬 7,000 ルーピーの減少を示した。ドイツは尙第一位を占めてゐるが、其 100 分率は 4 割 1 分より 3 割 6 分 5 厘に低下し、之に反して英本國は 2 割 9 分より 3 割 1 分 5 厘に、米國は 1 割より 1 割 1 分に夫々進展をなし、日本は不動である。

機械類 輸入總額 3,990 萬ルーピーにして 1,230 萬ル

ルーピー減であるが、鐵道機關車を除き凡べての重要機械類に此減退を見た。電氣機械は 403 萬ルーピーを、燃油機關(機關車を除く)及紡績機械は夫々 231 萬 1,000 ルーピー及 212 萬 5,000 ルーピーを減少、主として英國よりの輸入減に因る。從來英國は機械類の最大供給國であるが、其總額に對する比率は 7 割 6 分 2 厘より 7 割 5 分 9 厘に低下、之に反しドイツ、米國は 8 分 8 厘より 9 分 8 厘に及 6 分 9 厘より 7 分 1 厘に夫々上昇した。

燐寸 近年燐寸工場の設立激増の結果インド内地に於ける生産増加に伴ひ製品としての燐寸の輸入は年々減少し來り、本年は 6 萬 6,000 グロス 8 萬 9,000 ルーピーの減少を見た。輸入總額 18 萬 3,000 グロス 14 萬 9,000 ルーピーの中エーデンは 9 割 8 分を占めてゐる。剝板、ヴェニア及空燐寸箱の輸入は皆無。

鐵及鋼 世界經濟不振により特に甚大なる打撃を蒙つたものは製鐵業にして、其價格は非常なる低下を見たにも拘らず、需要は一定限度を出でない有様であつた。殊に英國品輸入は大陸諸國の激甚なる競争に依り頗る不成績であつた。

尙インドの製鐵業も鐵道計畫の大削減及私的工事の縮小に依り打撃を受けた。然し全體から言へば前年よりも稍々好況と言へよう。

鐵及鋼の輸入總額は 17 萬 3,577 噸、2,841 萬 8,166 ルーピーにして、前年に比し 8 萬 7,226 噸 1,573 萬 8,948 ルーピーの減退を來した。之を主要供給國に付いて見るに、英國は前年の 9 萬 2,000 噸 1,850 萬ルーピーより 4 萬 7,000 噸、954 萬 2,000 ルーピーに、ベルギーは 11 萬 5,000 噸、1,610 萬ルーピーより 8 萬 3,000 噸、1,160 萬ルーピーに何れも減少、又ドイツ及ルクセンブルグよりの輸入も減少を見たが、之に反しフランスは 8,500 噸、96 萬 7,000 ルーピーより 1 萬 200 噸、97 萬 5,000 ルーピーに増加した。

保護關稅課稅品目中に於て亞鉛鍍鐵は英國よりの輸入減の爲前年の 7 萬 2,000 噸より 4 萬 5,000 噸に、鋼鐵以外の棒、非鍍鐵及山形鋼並丁形鋼は各主要供給國よりの輸入減の爲何れも減少した。梁材、溝形材、柱材、桁材橋梁材はベルギー及英の輸入減の爲 2 萬 5,000 噸より 2 萬噸に、錫鍍鐵は英國の輸入減に依り 9,355 噸より 5,263 噸に夫々減少を見た。之に反してレール、輻枕及フイツシュ・プレートはベルギーの供給増加に依り却つて増加した。

他の金屬類 眞鍮は大部分ミツグスト・メタル又はイェロー・メタルより成り、18 萬 9,389 斤、984 萬 7,452 ルーピーより 18 萬 5,174 斤、763 萬 3,002 ルーピーに減少

之を主要供給國に付て見ると、英國は2萬2,000筋、106萬3,000ルーピーより1,300筋、6萬1,000ルーピーに激減して居り、日本は4萬7,000筋、254萬8,000ルーピーより4萬6,000筋、207萬7,000ルーピーに減じた。然るにドイツは數量に於ては9萬5,000筋より11萬5筋に増加したにも拘らず、價額に於ては481萬1,000ルーピーより440萬8,000ルーピーに減退を來した。銅は價格の著しく低下したる爲其輸入も6萬7,000筋、409萬4,000ルーピーより10萬5,000筋、492萬9,000ルーピーに増加するに至つた。米國は前年は輸入皆無であつたのに本年は一躍2萬8,500筋、127萬5,000ルーピーを供給してゐる。ドイツ、フランスの供給額も2萬7,000筋(166萬6,000ルーピー)より4萬3,000筋(209萬8,000ルーピー)に及1萬2,000筋(74萬2,000ルーピー)より2萬4,000筋(107萬9,000ルーピー)に夫々増加したが英國は1萬6,000筋(103萬1,000ルーピー)より3,000筋(19萬300ルーピー)に、又日本も5,170筋(31萬1,000ルーピー)より220筋(1萬1,000ルーピー)に減退した。セルマン銀は前年に引續き減退、之はドイツ、オーストリア、イタリーの供給減に因る。

自動及自動自轉車 政治的の動搖と經濟的不況の反動は迅速且深刻に本品取引上に現はれ附屬品及部分品を加へたる輸入總額は2,040萬ルーピーにして、前年より1,450萬ルーピーを減少した。此中自動車は8,728臺、1,750萬ルーピーより5,280臺、989萬5,000ルーピーに減少。主要供給國は米國、英國、カナダ、イタリー、フランスの順である。

本年は各國とも減退したが、カナダのみは709臺より1,236臺に激増した。自動自轉車は總數に於て320臺より273臺に減少、而も此中252臺は英國の供給である。商用車も亦8,968臺、1,140萬ルーピーより4,987臺、651萬2,000ルーピーに減少、大部分米國の輸入減である。

英國鐵鋼業保護と斯業改造問題(昭和7年6月26日附在ロンドン松山商務參事官報告) 英國鐵鋼業の生産力が現在の市場に比し過大であると同時に、其生産組織が歐米主要鐵鋼生産國の有する新式工場に比し舊式のものであることは既に周知の事實である。尤も箇々の工場に就て見れば英國の工場中にも獨、白、佛等大陸諸國の工場に比べて能率の點に於て劣る所なきものはあるのだが一般に見る時は英國の生産形態は企業の單位が小規模で數に於て多きに過ぎて居る上に、産業の經營者には英國獨特の個人主義的の傳統が深く染込んで居り、近代的生産組織に必要な生産の集中化、販賣の方に在ては市場の割當乃至協定と云ふが如きことの實現を困難ならしめ

て居るのである。企業の單位の數が多いことは即ち規模生産者が多く競争の激化を招くことを意味して居て、そして經營費の節減として最必要な燃料と副産物(コークス、瓦斯等)の經濟的處置と謂ふ様なことが出來ず、今日の様な不況時代に際しては何の會社として全能力を擧げて生産に従事して居る様なものはないと云ふ様な實狀であるが、殊に最近に資本を募つて工場の改造を行ひ、比較的に新式設備を有する所では作業短縮を餘儀なくせられる結果として、生産品の原價は甚敷割高とならざるを得ない譯で、折角生産組織を改めた工場でも他に群小の工場が多數あつて、安値競争をする現状では大陸諸國の大規模生産組織の下にある工場とは競争が出來ないことになる。英國各産業組織に就て徹底的檢討を行つたバルフォア委員會の報告に據るも、1925年平均熔鑄鑪能力は英國約4萬1,000噸米國13萬8,000噸獨逸9萬6,000噸であるが、其後獨逸は外資を輸入し新式大規模の生産組織に改造を行つたから、現在は右に示すよりも生産能力を増大して居ること勿論である。鋼鑪に就ては英國の工場が必ずしも劣つて居るのではないと云はれておるが、夫でも632基の開鑪に就て見るに、540基は65噸の能力を有つもので、100噸以上の能力のものは僅に32基に過ぎない状態であると云はれ、米國や獨逸の工場に比すると甚敷い遜色が認められる。又石炭の燃焼方法に科學的改良を加へて、石炭瓦斯其他の副産物を鐵鋼業に利用して、生産費節減の途を開くが如きことは英國鐵鋼業に残されて居る事業であらう、そして國內の鐵鋼業を炭坑業と密接に連絡せしめ冗費節約の方法を講ずること、例へばスコットランド、ミドルズボロ、シエフキールド、サウスウエールズ、ランカシア等の5地方に炭坑業と鐵鋼業の經濟的統制と事業集中を行ふに於ては現在よりも低廉且有利に英國内産業の需要する鐵鋼材が供給出來た上に、外國市場にも其の地歩を維持することを得るであらうとの主張もあるのであるが、從來箇々の會社に部分的に緩慢なる改造乃至他會社との合同若しくは事業協定が行はれた以外には、斯業全體より見て計畫的に顯著なる改造が行はれた例は未だ殆んど無く、輸出は不振となると共に國內には印度銑鐵を初め大陸鐵鋼品の輸入増加し、國內生産業は内外より壓迫せらるゝ状態が最近迄續いたのである。

鐵鋼業に對する保護關稅の必要は數年來繰返し、當業者に依つて叫ばれて來たのであつたが、他の産業に取つて重要な材料を供給するの地位にある鐵鋼業を當業者の云ふが如くに保護し、其結果が國內相場の騰貴とか、或は格安の外國品が手に入らなくなるとか云ふことにな

ると、國內一般製造工業に及ぼす影響が多大であつて、其の方面の反對も強硬であり、政府も之を慎重に考慮せざるを得ない事情にあつた、夫故昨年過當輸入税法の下に在つても銑鐵を初め半製造品たる鐵鋼類には課税を見なかつた次第である。而し乍ら1932年輸入税法が成立すると同時に、右の品目にも一般從價1割税が課せらるることとなつたが、從價1割税位では到底國內産業の保護にはならないと云ふことで、當事者側の熱心な運動は繼續し、關稅諮問委員も鐵鋼の輸出が減ずる一方に於て、外國製品が安値を以て盛んに輸入せられ、國內には失業者の激増も認めらる事態となつたので、焦眉の急に迫つたものとして左の鐵鋼品に付3箇月の期限を附し23%の附加税(一般從價1割税と併課されるが故に33%となる)賦課を提議するに至り、政府は其答申に従ひ1932年4月19日附發令を以て之を實施することとなつた。

(1) スピーゲライセン、滿俺鐵。

(2) 銑鐵を除く鐵鋼品中、鑄塊、鑄片(何れも木炭銑より造りたるものを除く)壓延鐵鋼材類(鋸、條竿類)錫鋸竿、各種形物、鑄物類(100斤以上のもの)蹄鐵。

右の各品目に對し稅關諮問委員が附加税提議を爲すに當つて、3箇月の期限を附した事情は、同委員が大藏當局に提出した答申中に明に示されてある。即ち同委員は英國市場に外國輸入品の激烈なる競争が行はれつゝある事實を認め、斯様に外國生産過剰品が安値で提供せらるることは、鐵鋼を材料に使用する英國國內製造業に取つて一時的には利益ではあらうけれども、其状態を放任して置いたが爲に國內鐵鋼業が壓倒さひて仕舞たり、或は事業の範圍が永久的に縮少して仕舞ふ様なことになると、國の大局より見て由々敷い事態であると爲し、鐵鋼業に最高の能率を發揮させる事は、英國製造業に取つて必要なことである許りか、國民的生活確保安全と云ふ見地よりすれば最重大な問題であるから、斯業に至急適當なる保護を加ふべきものなりとする主張は認めざるを得ないが、既に數次の調査を斯業に就て行つて見ると餘程綿密な徹底的調査をした上でないと、永久的保護施設の大綱だに示すことが出來ない程、他の産業との關係が複雑を極めて居ることを發見したのだが、若し斯様な複雑な調査を行ふ間延引することになると、鐵鋼業に特に不利な待遇を與へる譯であるから、取り敢へず暫定的に最近甚しい安値で輸入されて居る外國競争品の輸入を阻止して置くを必要と認めると云ふ理由で、右の如く3箇月の期限を附して附加税設定を設説したのであつた。

政府が右の勸奨に基づいて直に附加税賦課の發令を爲したること前述の如くであるが、銑鐵は除外せられて居つたので、當業者の失望を招いた所多大であつて、關稅諮問委員に運動を繼續した結果、同委員も市場の狀勢に照し銑鐵にも(木炭銑を除く)曩に發令の附加税23%を適用するの要ある旨報告したので、政府は6月14日より右を實施する旨6月8日附を以て發令することになつた。

關稅諮問委員の答申に據れば、英國銑鐵の生産は大戦前4年間の平均9,34,000噸であつたものが、1924年には7,160,000噸に、1930年には6,060,000噸に減小した製鋼材料にスクラップアイアンが多く用ゐられる様になつたことも右銑鐵消費減少の一因ではあつたが、英國で消費せられる銑鐵の大部分は英國國內で生産されるものを以て供給し得る状態であつた。1931年には銑鐵の生産更に著減して3,700,000噸に低下したが、英國需要を英國品で大體に於て満すと云ふ事情には變化なく、本年4月關稅諮問委員が他の鐵鋼品に附加税設定を提唱した際も、銑鐵は加ふる要なしと認めたのである、處が其後の數週間の市場は如何にと云ふに、大陸製品の唱値は著しく低落し、英國國內銑鐵製造業は一大脅威を感ずるに至つた、尤も右の様な安値が現在してから日が淺い故、輸入統計に顯著なる變化を示す程に大陸品の輸入が殖えた譯ではないけれども、國內市場の滯荷が消化された後で此様な安値競争が起るであらうなれば國內には休爐續出を氣遣はれる實状であるから、差當り曩に他の鐵鋼品に設定した附加税を銑鐵にも適用するを妥當と認めたと認めたと云ふのである。

而し乍ら關稅諮問委員は鐵鋼材料の國內相場が將來に右の如き保護の爲に割高となつて、鐵鋼業に依存する他の産業の地に陥れる危険を虞れて居るので、鐵鋼業界の有力代表者を招いて、將來の對策として鐵鋼業に合理的改造を行ひ、生産原價の低下を計るの急務を力説したのである。其趣旨は鐵鋼業に取り其生産品が賣れることが繁榮の基礎を爲すは云ふ迄もないが、生産品を賣れる様にするには鐵鋼を爲す條件を爲すは云ふ迄もないが、生産品を賣れる様にするには鐵鋼を材料として使用する他の製造及建築業の繁榮が前提となる、處が英國の製造業は主に輸出に依存して居るのであるから、材料たる鐵鋼は外國品に比し不當に高價ならず、品質も良好でなければならぬ、從て内國の鐵鋼業に保護を加ふると同時に斯業を國內産業の要求に應じ得る様に改造することが急務である、英國には英國の特長があるのであるから、必ずしも大陸諸國に見るが如き改造をせねばならぬもの

でなく、又一足飛びに大改造が出来る譯のものでもないが、兎に角改造を目標に進まねばならない、夫には國內市場を國內生産業の爲め確保するを前提とすると云ふにあつて、諮問委員と懇談した鐵鋼業代表者達も異論のある筈はなく、直に左の人々が委員に擧げられナショナル・コムミチーが成立するとともに委員長にはドーマン・ロングのチャールス・ミツチエルが任命された。右の委員が如何なる改造案を畫策するやは未だ豫測の限りではないけれども、既に暫定的とは云へ當業者の渴望した所の保護關既も實現を見たのであるし、又過去の經驗に徴してもドーマン・ロング・ボルドウキン、ランカシア鐵鋼會社等の合同が行はれて改造への一歩が踏出されて居るし、近くは支那市場への發展を企圖してドーマン・ロング・アンド・アソシエーツ・チャイナが出現して該市場に於ける競争の排除と、冗費の節減を行ふの趣旨の販賣組織の改造を行つて居り、Steward and Lloyds, Ltd. United Steel Companies の 2 大會社も生産、販賣研究の 3 方面に合理的事業協定を結んで、其關係會社内外 20 數社を含んだ一大統制を實現する等斯業改造の機運は既に熟して居る様にも見えるから、經濟不況の打開と云ふ共同目標の下に改造問題は或は案外に急速な進展を示すかも知れぬ。ナショナル・コムミチーの顔振は左の如くである。

- Mr. Charles Mitchell, Chairman, (Chairman, Do man Long and Co.)
 Mr. E. J. George, (Managing Director, Consett Iron Co.)
 Mr. A. N. McQuistan, (General Manager, Cargo Fleet and South Durham Iron Co.)
 Mr. John Craig, (Chairman, Colvilles)
 Mr. A. K. McCosh, Chairman, Wm. Baird and Co.)
 Mr. Walter Gray, (Managing Director, Steel of Company of Scotland.)
 Mr. Andrew Gray, (General Manager, Lanarkshire Steel Company.)
 Sir John Beale, (Chairman, Guést Keen and Nettlefolds.)
 Sir W. J. Firth, (Chairman, Richard Thomas and Co.)
 Mr. Frank Reeds, (Chairman, South Wales Siemens Steel Association.)
 Capt. R. S. Hilton, (Manager Director, United Steel Co.)
 Mr. F. Clements, (General Manager, Park Gate Iron and Steel Co.)
 Mr. H. A. Davis, (General Manager, Patent Shaft and Axletree Co.)
 Mr. H. Summers, (Chairman, John Summers and Sons)
 Mr. A. C. MacDiarmid, (Chairman, Stewarts and Lloyds.)
 Mr. E. J. Fox, (Manager Director, Stanton Ironworks

- Co.)
 Mr. G. H. Johnson, (Managing Director, Ketting Iron and Coil Co.)
 Mr. D. N. Turner, (Managing Director, Staveley Iron Co.)
 Mr. W. R. Lysaght, (Chairman, J. Lysaght.)
 Major A. Hibbert, (General Manager, Millom and Askam Hematite Iron Co.)
 Mr. J. Davison, (General Manager, Barrow Homatite Steel Co.)
 Mr. A. J. Grant, (President, National Federation of Iron and Steel Manufacturers, Managing Director Thos. Firth and John Brown.)
 Mr. J. E. James, (Chairman, Lancashire Steel Corporation.)

内外最近刊誌參考記事目

The Foundry, July, 1932.

- High Test Cast Iron. R. S. MacPherran. pp. 12-13.
 Non-ferrous Castings Resist Corrosion. Norman F. Hindle. pp. 14-15.
 Coreless Induction Furnaces. R. N. Blakeslee, Jr. pp. 18-19.
 Refining Methods for Gray Iron. B. F. Miller. pp. 22-23.
 Steel Founding in America. F. A. Melmoth. pp. 24-25.
 Recover Dust in Sand Spun Plant. S. D. Moxley. pp. 26-27.

The Foundry, August, 1932.

- Pours Steel in Pressure Castings. Fred T. Hays. pp. 12-13.
 Tie Pattern making to Production. H. M. Harold. pp. 14-15.
 Phosphorus in Red Brass. P. W. Parsons. pp. 16-17.
 Fire Furnaces with Powdered Coal. Frank S. O'neil. pp. 18-19.
 Rating Squeezer Production. Russel C. Miller. pp. 20-21.
 High Test Cast Iron. R. S. MacPherran. pp. 26-27.

Heat Treating and Forging, August, 1932.

- Flow Lines in Forged Steel. Eugene W. Nelson. pp. 465-467.
 Nitralloying Practice and Processes. J. W. Urquhart. pp. 468-470.
 Zirconium Additions to Steel and Cast Iron. Richard Tull. pp. 471-473.
 The Flow of Fluids in Pipes and Ducts. Philip M. Gallo. pp. 474-475.
 A Variable Stroke Board Drop Hammer. p. 477.
 Forging and Heat Treating Small Tools. J. B. Nealey. pp. 481-483.
 Heating and Cooling Wire. pp. 485-486.
 Gaseous Combustion in Industry. R. V. Wheeler. pp. 487-488.
 Plants of the Climax Fire Brick Co. Charles Longenecker. pp. 489-490.

Zeitschrift für Metallkunde, Juni, 1932.

- Zur Diffusion und Entmischung in Mischkristallen. A. Smekel. s. 121-126.
 Die Kriechfestigkeit metallischer Werkstoffe bei erhöhten Temperaturen und ihre willkürliche Beeinflussung durch Wärmeverbehandlung. W. Rohn. s. 127-131.
 Untersuchungen über die Warmfestigkeit von

- Leichtmetallen bei statischer und bei wechselnder Beanspruchung. W. Schwinning und E. Strobel. s. 132-137.
- Präzisions-Röntgenverfahren in der Legierungsforschung. J. Weerts. s. 138-141.
- Zeitschrift für Metallkunde, Juli, 1932.**
- Untersuchungen über Spannungs-Korrosionsrisse an Leichtmetallen. P. Breuner. s. 145-151.
- Untersuchungen über die Warmfestigkeit von Leichtmetallen bei statischer und bei wechselnder Beanspruchung. W. Schwinning und E. Strobel. s. 151-153.
- Die Umwandlung des weissen in graues Zinn (Zinnpest). G. Tammann. s. 154-156.
- Untersuchungen über Tiefziehen. W. Rien. s. 157-161.
- Über die Glühbehandlung von Metallbändern in Durchziehöfen. O. Junker. s. 162-164.
- Zeitschrift für Metallkunde, August, 1932.**
- Über die Rekristallisation und Kristallzerholung von Reinaluminium und einigen aushärtbaren Aluminiumlegierungen auf Al-Cu-Basis nach Kaltverformung. H. Bohner und R. Vogel. s. 170-175.
- Dynamische Festigkeitseigenschaften einiger Leichtmetalle. K. Matthaes. s. 176-180.
- Leichtmetall-Sandguss seine statische und seine Schwingungs-Festigkeit. W. Saran. s. 181-184.
- Schichtreaktion—Zur Frage der Korrosion der Metalle. Leif Tronstad. s. 185-188.
- Elektrisches Blankglühen von Kupfer. E. Fr. Russ. s. 188-191.
- Die Welzbarkeit von Zink—ihre Beeinflussung durch Walztemperaturen und Verunreinigungen. O. Bauer und P. Zunker. s. 191-192.
- The Metal Industry (London) July 1, 1932.**
- Present-Day Nickel Converter Practice. C. C. D. pp. 3-4.
- The Waelz Process. William E. Harris. pp. 5-8.
- Beryllium. Alfred Stock.
- The Adhesion of Electrodeposited Nickel to Brass. A. W. Hothersall. pp. 13-15.
- Plating of Cast Aluminium and Composite Assemblies. E. Smith and C. A. Velarde. pp. 15-16.
- The Metal Industry (London) July 8, 1932.**
- Aluminium as an Impurity in Industrial Brass Alloys. Gerhard Wolf. pp. 27-28.
- Production and Treatment of the White Gold Alloys. Werner Fröhlich. pp. 28-29.
- Chromium. Lewis A. Smith. pp. 30-32.
- The Annealing of Metal Strip in Automatic Continuous Electric Furnaces. Otto Clever. pp. 33-34.
- The Colouring of Aluminium. pp. 35-36.
- The Metal Industry (London) July 15, 1932.**
- The Art of Bronze Founding. pp. 51-55.
- Chromium. Lewis A. Smith. pp. 56-58.
- Practical Plating—Theoretical Considerations. E. A. Ollard. pp. 61-62.
- Lead and Lead-Antimony Anodes for Chromium Plating. E. M. Baker and P. J. Merkus. pp. 63-65.
- The Metal Industry (London) July 22, 1932.**
- Continental Galvanizing Practice. Heinz Bablik. pp. 75-76.
- Trade Opportunities and Representation of British Manufacturers in Canada. Allan Mac B. Stewart. pp. 77-78.
- Phosphorus in Red Brass. R. W. Parsons. pp. 79-81.
- Chromium. Lewis A. Smith. pp. 75-87.
- The Metal Industry (London) July 29, 1932.**
- England's Wonder Bells. Ernest Morris. pp. 99-100.
- American Society for Testing Materials. Annual Meeting—Abstracts of Some of the Papers. pp. 101-102.
- The Control of Electrodepositing Solutions. No. XIII.—The Nickel Solution. Samuel Field. pp. 109-110.
- The Adhesion of Electrodeposited Nickel to Brass. A. W. Hothersall. pp. 111-113.
- The Metal Industry (London) Aug. 5, 1932.**
- The Story of Early Metallurgy IX.—The Bronze Age in Europe. R. T. Rolfe. pp. 123-126.
- Tarnish-Resistant Silver Alloys. K. W. Ray and W. N. Baker. pp. 127-129.
- Accelerated Weathering Tests of Soldered and Tinned sheet Copper. Peter R. Kosting. pp. 133-135.
- The Metal Industry (London) Aug. 12, 1932.**
- The Fundamentals of Brass Foundry Practice. R. R. Clarke. pp. 147-148.
- Accelerated Weathering Tests of Soldered and Tinned Sheet Copper. Peter R. Kosting. pp. 148-149.
- Thermal Effects in Elastic and Plastic Deformation. M. F. Sayre. pp. 153-156.
- Practical Plating—Theoretical Considerations, II. E. A. Ollard. pp. 157-159.
- (若林)
- Steel, Aug. 15, 1932.**
- Typed Forging Dies Have Longer Life and Cost Less to Make. E. F. Ross. p. 21-23.
- Electric Drive Winds Strip under Constant Tension. C. L. Peterson. p. 24-26.
- Steel, Aug. 22, 1932.**
- Forging Furnaces in Railway Smith Shop Use Pulverized Coal. p. 25-27.
- Steel, Aug. 29, 1932.**
- Framless Steel House Points Way to Lower Cost Construction. p. 21-23.
- Electric Tube Welder Uses Series of Flat Contacts. p. 24-26.
- Steel, Sept. 5, 1932.**
- Diffusion Combustion Heating Reduces Scaling Loss of Steel. Part 1, W. M. Hepburn. p. 25-27.
- Steel, Sept. 12, 1932.**
- Arc Welding Provides Economical Means for Steel Car Repair. William H. Zoron. p. 23-26.
- Producing High-Grade Steel Casting for Pressure Work. Fred T. Hays. p. 28-32.
- The Iron Age, Aug. 11, 1932.**
- Die for Deep Drawing of Shells. Richard Dale. p. 213.
- Fabricating Ford Lamps From Rustless Steel. Burnham Finney. p. 214-217.
- The Finishing of Rolls by Grinding. Carl Marey. p. 218-219.
- Open-Hearth Charging Boxes Will Test Welded Construction. Harry E. Stitt. p. 221.
- Basic Open-Hearth Furnace Charges. L. B. Lindemuth. p. 250-252.
- Improved Equipment Widens Field for Die Castings. William M. Lester. p. 253-254.
- Fuel Economy in Large Blast Furnaces. R. P.

- Hudson. p. 254.
 Magnetic Clutch and Brake Control Increase Production Quota Range. J. R. Armstrong. p. 256-257.
- The Iron Age, Aug. 25, 1932.**
 Timing Chain Production Presents Unusual Problems. Herbert R. Simonds. p. 288-289.
 Equipment for Burning Fuel Oil. Robert C. Hopkins. p. 290-291.
 Molybdenum in the Iron Foundry. J. K. Smith and E. R. Young. p. 292-294.
 The Iron Mine of Russia. L. D. Anderson. p. 296-297.
- The Iron Age, Sept. 1, 1932.**
 Liquid Baths for Heat Treating—Oil and Lead. W. Paul Eddy. p. 323.
 Alloy "Indicators" Suggested for Solving Corrosion Problems. T. Holland Nelson. p. 331.
- The Iron Age, Sept. 8, 1932.**
 Test Results and Service Valve of Materials. H. F. Moore. p. 365.
 Right Relations of Air and Oil in Oil Burning. Robert C. Hopkins. p. 368-269.
- Blast Furnace and Steel Plant, Aug., 1932.**
 Disposal of Rolling Mill Scale. V. A. Senrab. p. 643-645.
 Safe Loading of Steel in Boats. P. M. McArdle and A. V. Berquist. p. 646-647.
 Stainless Production Equipment and Method of Manufacture. Part III. S. C. Smith. p. 652-654.
 Moving Materials by Conveyer. Charles A. Adams. p. 655-657.
 Developments in Unburned Magnesite Brick. A. E. Fitzgerald. p. 658-660.
- Iron and Steel Industry, Aug., 1932.**
 Corrosion of Cast Iron Pipe by Electrolytic Action. p. 383-384.
 Dredger Spares. H. V. Fell. p. 385-388.
 Hardening Cast Iron. J. E. Hurst. p. 389-391.
 New Blast Furnace at Workington. p. 393-395.
 Journal Binding—Wire Oxidation. James Scott. p. 397-398.
 Heterogeneity of Steel Ingots. p. 402-406.
- Iron and Steel Industry, Sept., 1932.**
 Blast Furnace Problems. W. McConnachie. p. 415-418.
 The Manufacture of Sound Steel. p. 421-427.
 Fatigue Failure Under Repeated Compression. H. R. Thomas & J. G. Lowther. p. 429-431.
 Summary of Present-Day Knowledge of Fatigue Phenomena in Metals. T. S. Fuller, P. F. Mumma & H. F. Moore. p. 435-436.
 The Significance and Limitations of Fatigue Test Results. R. E. Peterson & H. F. Moore. p. 437-438.
- Foundry Trade Journal, Aug. 4, 1932.**
 The New Mechanised Foundry of Meers. Ferranti, Limited. p. 65-69.
- Foundry Trade Journal, Aug. 11, 1932.**
 Inclusions—Their Effect, Solubility and Control in Cast Steel. C. E. Sims & G. A. Lillieqvist. p. 77-82.
 Combustion of Pulverised Coal in Metallurgical Furnace. Peter. M. MacNair. p. 85-86.
- Foundry Trade Journal, Aug. 18, 1932.**
 Salient Points of American Steel Founding. F. A. Melmoth. p. 94-96.
 Rationalisation of Manual Labour by Industrial Physiology. Rene Leonhardt. p. 97-98.
 Nickel in Steel Casting. F. Johnstone Taylor. p. 99.
- Foundry Trade Journal, Aug. 25, 1932.**
 Some Factors Affecting the Cleanliness of Steel Casting. C. H. Herty, C. F. Christopher & M. W. Lightner. p. 107-108.
 Moulding and Runner Boxes. G. Longden. p. 109-110.
 The Influence of Design on Brass and Bronze Casting. Lewis H. Fawcett. p. 111-113.
 An Open-Hearth Furnace for Melting Cast-Iron Borings. T. L. Joseph & C. E. Wood. p. 114.
- Foundry Trade Journal, Sept. 1, 1932.**
 Black-Heart Fractures in White-Heart Malleable Cast Iron. J. V. Murray. p. 121-124.
 Mechanism of Deformation in Gray Iron. J. W. Bolton. p. 125-126.
- Metal Progress, Sept., 1932.**
 Forgeability of Steel. O. W. Ellis. p. 19-23.
 Diffusion Combustion. W. M. Hepburn. p. 24-28.
 Machinability Measured by Simple Tool. O. W. Boston & C. E. Krans. p. 29-33.
 Deep Acid Etch Test. J. P. Gill & H. G. Johnston. p. 37-42.
 Brittleness under Slowly Creeping Stress. Ernest E. Thum. p. 43-47.
- Metals and Alloys, Aug., 1932.**
 Light Alloys in Motor Vehicle Construction. Frank Jardine. p. 173-176.
 Steel in the Light of the Precipitation Theory. Albert Sauveur. p. 177.
 Aluminium Alloys in the U. S. S. Akron. G. O. Hoglund. p. 178-180.
 The Constitution of the Copper-Tin Lead System. p. 181-182.
 Structure of Heat Treated Low Carbon Steel. Welton J. Crook & Edmund C. Babson. p. 183-184.
 The Rockwell Superficial Hardness Tester. V. E. Lysaght. p. 185-188.
- Metallurgia, Aug., 1932.**
 Industrialising Russia. p. 107-110.
 X-rays in the Aluminium Industry. N. C. Hypher. p. 115-117.
 Aluminium Sheet Production. Part XIII. Robert J. Anderson. p. 121-122.
 Recent Developments in Rod and Wire Mills. Albert Nölk. p. 123-124.
 Electric Resistance Alloys for High Temperature Service. p. 125-127.
 Electrical Conductivity of Copper. G. Elsner & P. Siebe. p. 129-132.
 Refractory Materials for Air-heating Furnaces. Albert B. Searle. p. 133-134.
- Stahl und Eisen, 21. Juli, 1932.**
 Bemessung der Geschwindigkeiten für die Hilfsrichtungen neuzeitlicher schwerer Blockstrassen. Erich Howahr. s. 701-706.
 Die neue Kokerei der Ilseder Hütte. Herman Blome. s. 706-710.
- Stahl und Eisen, 28. Juli, 1932.**
 Betriebsüberwachung und Fehlerbeseitigung durch grosszahl-Forschung. Karl Daeves. s. 725-729.
 Leistungssteigerung von Winderhitzern mit geringen Mitteln. Siegfried Kreuzer. s. 729-731.
- Stahl und Eisen, 4. Aug., 1932.**
 Einfluss von gebranntem und ungebranntem Kalk auf die Stahlerzeugung im Basischen Elektroofen. Othmar V. Keil u. Erich Cermak. s. 749-758.

- Gegen Temperaturänderungen unempfindliche Magnesitsteine. Kurd Endell. s. 759-763.
- Stahl und Eisen, 11. Aug., 1932.**
 Neue Erfahrungen in der Eisenerz-Aufbereitung. Karl Drescher. s. 773-779.
 Verwalzenkalibrierungen und Kaliberanordnungen auf festliegenden Triowalzen. Theodor Dahl. s. 779-783.
- Stahl und Eisen, 18. Aug., 1932.**
 Die Blechglühöfen in Vergangenheit und Gegenwart. Friedrich Bleimann. s. 797-806.
 Beschickungsvorrichtungen an Elektrostrahlöfen. s. 806-809.
- Stahl und Eisen, 25. Aug., 1932.**
 Anwendung kleinster Walzendurchmesser und Fortbildung von Mehrrollenwalzwerken. Wilhelm Rohn. s. 821-825.
 Wasserverschlüsse in Gasleitungen. Karl Schwantke. s. 825-830.
- Stahl und Eisen, 1. Sept., 1932.**
 Die technische Verarbeitung von pulverförmigem Carbylisen nach dem Sinterverfahren. F. Duftschmid, L. Schlecht und W. Schubardt. s. 845-849.
 Anpassung der Kokerei an veränderte Betriebsverhältnisse bei sinkendem Beschäftigungsgrad. Kurt Skroch. s. 849-852.
- Die Giesserei, 22. Juli, 1932.**
 Verschleißversuche an einer Werkzeugmaschine mit auslegierter Führungsbahn. Georg Schlesinger. s. 281-184.
 Hochfrequenzöfen. E. Fr. Russ. s. 284-288.
- Deutsche Guszeiseistrasze, System Schmid-Laufach. Otto Leitolf. s. 288-290.
 fach. Otto Leitolf. s. 288-290.
- Die Giesserei, 5. Aug., 1932.**
 Die Dauerfestigkeit des Guszeisen. Paul A. Heller. s. 301-305.
 Herstellung einer reversierten Modellplatte mit Abstreifkamm nach dem Hainholzverfahren. Ernst Eiter. s. 305-309.
 Hochfrequenzöfen. II. E. Fr. Russ. s. 309-312.
- Die Giesserei, 19. Aug., 1932.**
 Über nichtrostende und hitzebeständige Chromguszeisenlegierungen. E. Houdremont u. R. Wasmuth. s. 322-325.
 Die Deuerfestigkeit des Guszeisens. Paul A. Heller. s. 325-332.
 Schrumpfrisse in einem Leichtmetallguszstück als Folge des Eingießens einer Lagerbüchse. Max Fidemann. s. 332-333.
- Korrosion und Metallschutz, Juli, 1932.**
 Korrosionserscheinungen an Feuerwehrfahrzeugen und die Masnahmen zu deren Bekämpfung. F. Reincke. s. 169-172.
 Über die Kantendeckfähigkeit und ihre Berücksichtigung bei der Prüfung von Anstrichmitteln. Fritz J. Peters. s. 172-179.
- Korrosion und Metallschutz, Aug., 1932.**
 Eine neue Theorie der Strukturkorrosion. G. Akimow. s. 197-205.
 Korrosion und Konstruktion im Schrifttum. Walter Deutsch. s. 205-210.

(岡本)

昭和7年7月中重要生産月報抜萃 (商工大臣官房統計課)

	6 月 中	前 月	前 年 同 月	1 月 以 降 累 計	
				昭 和 7 年	昭 和 6 年
金 gr	1,041,480	972,946	1,004,874	7,055,739	7,149,919
銀 gr	14,276,400	12,656,824	12,920,169	90,799,395	95,953,250
銅 kg	5,775,213	5,899,356	6,240,446	41,641,985	44,123,779
硫石 黄炭 ㊦	6,835	6,466	4,807	40,586	31,476
石油(原油)100l	2,080,328	2,141,257	2,129,506	15,385,228	15,234,341
セメント ㊦	218,273	205,943	262,742	1,498,195	1,817,406
過磷酸石灰 ㊦	269,504	292,655	290,664	2,114,346	2,141,978
硫 安 ㊦	72,922	68,831	69,599	615,468	542,407
	61,143	59,534	57,131	399,283	293,836